

当検証会は、厚生労働省統計改革ビジョン2019工程表（令和元年10月8日）に基づき、外部有識者によるEBPMの実践状況の検証等を行い、EBPMの更なる推進を図ることを目的として、厚生労働省から委託された三菱UFリサーチ&コンサルティング株式会社が参集を求めて開催されたものであり、令和3年9月15日から令和4年2月4日まで計3回にわたり、厚生労働省におけるEBPMの推進に係る取組について検証を行った。

厚生労働省の取組

- 令和4年度概算要求プロセスにおいて、**①新規事業、②モデル事業、③大幅な見直しを考えている既存事業**のうち、一定の選定基準に該当するものについて、原則としてロジックモデルを作成する。なお、部局単位で①～③に該当する事業が1つもない場合は、**新規事業（新規事業がない場合は既存事業）のうち最も要求額が大きい事業**について、ロジックモデルを作成し、活用する。このうち一部を公表。
- EBPMの実践事業のロジックモデルについて、EBPM事務局が点検し、各部局担当に対して助言・効果検証方法等の提示を実施。

選定基準(今後、EBPMの実践等を通じて、毎年度見直しを行う予定)

	事業	概要
①	新規事業	新規に予算要求する事業であり、要求額が 1億円以上 の事業
②	モデル事業	本格的な事業展開に先立って、規模や対象を限って一定の手法を実践することなどを通じ、有効性を検証する事業
③	大幅見直し事業	対前年度予算額 50%以上 増加する事業であって、かつ、増加分の差額が 1億円以上 の事業
④	①に該当しない新規事業 又は ③に該当しない既存事業	※ 部局単位で①～③に該当する事業が1つもない場合 ①以外の新規事業(新規事業がない場合は③以外の既存事業)のうち、最も要求額が大きい事業(部局単位) なお、本欄は財務省主計局への概算要求提出時まで適用する。

注 年度途中で補正予算対応となった事業についても、令和4年度に事業を継続する場合は、引き続き本年度の実践対象事業とする。

(有識者検証会資料より抜粋)

1 ロジックモデルの点検・助言・効果検証方法等の精度向上に係る検証

【検証結果】

- 令和3年度に実施したロジックモデルの点検・助言・効果検証方法等については、ロジックモデルや効果検証方法等の精度向上に寄与することから、おおむね妥当である。また、令和3年度重点フォローアップ事業では、令和5年度の効果検証に向けて、事業の実施前にリサーチデザインの実現可能性も考慮しつつ、各事業担当課室に対して提案を行っている。こうした取組はEBPMの浸透に向けて厚生労働省における恒常的な取組となることを目指して実施すべきである。
- 令和2年度に選定した重点フォローアップ事業については、定期的にフォローアップを行うとともに、必要に応じて新たな効果検証方法を提案しており、取組として妥当である。

【今後の課題】

- ① ロジックモデルについては、公開されているものについては可能な範囲で最新版を掲載することが望ましい。
- ② アウトカムに観察可能な指標の設定を重視しすぎると、本来の政策目的として設定すべきアウトカムから乖離してしまう懸念があることに注意が必要である。
- ③ アウトカムについては、可能な限り社会的なインパクト又は政策目標に近いものでかつインプット・アクティビティから遠すぎないものを設定すべきである。その際、セミナーの開催数など不確実性を基本的に伴わないような指標をアウトカムに設定するのは適切でないと考えられる。
- ④ 厳密な効果検証を行うのであれば、効果検証方法にランダム化を含む適切な分析レベルの仕組みを取り入れる必要があることを省内に浸透させていくことが望ましい。
- ⑤ リサーチデザインについては、当初予定していた効果検証方法が状況の変化等により実施困難となる場合があることから、ある程度理想を目指しつつ、フィージビリティ（実現可能性）を意識しながら代替案を考えることも重要である。
- ⑥ アクティビティが実現困難な場合には、その理由を検証するフレームも必要である。

検証

厚生労働省のEBPM推進に係る有識者検証会検証結果取りまとめ(案)のポイント

2 次年度のEBPMの実践に向けた検証

ア 事業のスクリーニング基準(選定基準・除外基準)に係る検証

- ・ EBPMの実践事業の選定・除外基準
- ・ 重点フォローアップ事業の選定基準
- ・ 効果検証対象事業の選定基準

イ 予算過程での反映方法に係る検証

ウ 事後の効果検証スキーム等の精度向上に係る検証

エ その他EBPMの取組に関する全体スキームに係る検証

【検証結果】

- ア 令和3年度EBPMの実践事業の選定基準・除外基準、重点フォローアップ事業及び効果検証対象事業の選定基準については、EBPMの浸透や事業の領域バランス等の観点から、おおむね妥当である。
- イ 令和4年度予算過程におけるロジックモデルの活用や実践を通じた課題への認識は、EBPMの更なる推進の観点から、おおむね妥当である。
- ウ 事後の効果検証スキーム等については、EBPMの普及・浸透という観点から、おおむね妥当である。



【今後の課題】

- ア
- ・ 重点フォローアップ事業の選定基準については、統計的因果推論ができるかどうか重視されているが、中長期的な政策目標に対してその政策の効果を確認するためのデータが入手可能であるかという観点も引き続き重視する必要がある。
 - ・ 効果検証対象事業の選定基準については、リサーチデザイン及びデータの質により判断すべきであることに注意が必要である。
- イ
- ・ 予算過程におけるロジックモデルの活用は始まったばかりであるが、ロジックモデルをコミュニケーションツールとして活用するためには、EBPM基礎研修を受講しやすくすること等を通じ、ロジックモデルの定着を進める必要がある。
- ウ
- ・ 効果検証の実施に当たっては、必要なデータの取得と人的・予算的なリソースの確保について検討する必要がある。その際、効果検証に割ける省内の人的リソースも限られていることから、厚生労働科学研究費補助金を用いて研究者などの外部リソースを引き続き活用することが望ましい。
 - ・ 効果検証を行う場合には調査を複数回実施し、過去の結果と比較検証できるようなスキームを構築することが望ましい。
 - ・ 収集した行政記録情報の二次利用についても、研究者のデータ利活用の促進のため、公的統計の二次利用制度の枠組みを踏まえた上で検討することが望ましい。
- エ
- ・ 「ロジックモデルを書く」ということは、その政策の目的を広く共有し、意識するという意味において、全省的な展開として望ましいが、重点フォローアップ事業や効果検証対象事業でリサーチデザインを作ることとは一段高みを目指した取組であり、ロジックモデルの様式への記入とは意味合いが異なることに留意すべきである。
 - ・ 国民に対して事業の効果を分かりやすく説明することがEBPMの基本的な役割と考えられるため、政府全体において、ロジックモデルを用いて行政内部で効果的な事業推進や政策評価を行うことと、EBPMの考え方に沿って、施策を検証し、国民に分かりやすい形で公表し、民主主義的な政策決定の一助とすることについて、それぞれの位置付けを整理していくことが中長期的に望まれる。